

# 関西学院大学 研究成果報告

2021年4月30日

関西学院 院長殿

所属：商学部  
職名：教授  
氏名：藤沢 武史

以下のとおり、報告いたします。

|        |                                                                                                                                         |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研究制度   | <input checked="" type="checkbox"/> 関西学院留学 長期（滞在国：イギリス）<br><input type="checkbox"/> 関西学院留学 短期（滞在国：）<br><input type="checkbox"/> 宣教師研究期間 |
| 研究課題   | 多国籍企業の市場参入戦略に関する包括理論                                                                                                                    |
| 研究実施場所 | イギリス・レディング                                                                                                                              |
| 研究期間   | 2019年 9月 30日 ～ 2020年 9月 9日（12ヶ月）                                                                                                        |

## ◆ 研究成果概要（2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

2019年9月30日夜にイギリスのレディングに到着し、2020年9月9日昼に同地を離れるまでの学院留学中に発刊された研究成果は下記のとおり。

FUJISAWA, Takeshi (2019), "The Entry Strategies of Asian Emerging Market Multinationals", *KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY SOCIAL SCIENCES REVIEW*, Vol. 24. (December, 2019).

藤澤武史(2020)「外国人から見た神戸港の魅力に関するイメージ調査—横浜港との比較」広瀬憲三編著『関西復権の道—アジアとの共生を梃子として』（関西学院大学産研叢書43号）中央経済社、第3章、pp. 43-74。（2020年3月）。

藤澤武史（2020）「新型コロナウイルス対策への日・英比較—感染拡大の原因・影響と経済支援策の的確性—」『インパクトサイト』一般財団法人 国際貿易投資研究所、9月7日付け配信。

留学期間中における研究成果としての論文に限れば、英文単著論文、および日本語の書籍における割当て「章」の執筆担当にある。英国に滞在してから今までにない経験もふまえて日英両国の新型コロナ対策に関する問題意識を基に

し、経済支援策と絡めて執筆したのが、第3番目の記事である。これは帰国前に国際貿易投資研究所の理事長より原稿の依頼を受け、寄稿した経済記事に他ならない。

留学目的と直接関連した留学成果としては、*KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY SOCIAL SCIENCES REVIEW*に掲載された英文論文に集約される。本論文は2019年10月25日に関西学院大学研究推進社会連携機構へ提出したものである。原稿の提出期限は9月末であったが、本論文を完成させるにあたり、多国籍企業論の世界的権威とされるレディング学派を代表する御二方の教授と議論を重ねることを優先したため、投稿期限には間に合わず、原稿を待っていただいた。

まず、この論文に引用されているマーク＝カソン教授の研究室へ10月6日に受け入れへの御礼を兼ねて挨拶に伺った。アポイントメント時の退室予定時刻を過ぎてもお、多国籍企業理論に関する内部化アプローチの一般理論としての有効性と新興国系多国籍企業論への適用可能性について議論した。Teece, D. J. (2009)が唱える「ダイナミック・ケイパビリティ論」は多国籍企業理論に適さないとの見解をマーク＝カソン教授が提示され、その点を意識しながら議論に入った。

続いて、レディング大学ヘンリービジネススクール受入れ担当教授のナルーラ教授にも御礼の挨拶を交えて研究室を訪れた。多国籍企業理論に関する質問を繰り返し、丁寧にお答え頂いた。これら示唆や議論を反映して、英語論文を完成するに至った。

上記英文論文を提出し終えてから、英国へ持ち込んだ洋書に目を通し、研究テーマを絞り込み、「アジア新興国系多国籍企業の対先進国系多国籍企業の買収に関する理論研究」に焦点を当てることにした。

2019年11月上旬に『産研叢書43号』の第3章の完成原稿を提出し終えた段階で、上記テーマの関連文献をサーベイした。実質上、11月中旬から新規テーマに取り組んだことになる。その成果は以下に記載のとおり、2020年2月15日に広島市立大学で開催された日本貿易学会西部部会（アジア市場経済学会との共催）にて発表した。討論者ならびに会場参加者から概ね高い評価を得られた。なお、本学会発表に伴う帰国に際しては当然ながら学院留学費からの計上申請は一切していない。また2019年12月に研究推進社会連携機構の留学経費担当者宛へ、留学中に成果を基に国内学会で報告する旨を伝え、事前許可を得た。

#### 日本貿易学会ならびにアジア市場経済学会両西部部会研究報告会（広島）

開催：2020年2月15日 発表会場：広島市立大学サテライトキャンパス（広島市中区大手町9階セミナールーム2）

第3報告 藤澤 武史「新興国多国籍企業による欧米日系多国籍企業の買収の理論と仮説と検証」（関西学院大学）

コメント：大東和 武司（関東学院大学）

実は、2020年1月下旬にナルーラ教授の研究室で面会し、バリューチェーン分析に適する産業分野（PC、携帯電話）とそうでない分野（鉄鋼）に関する議論を交わした。学会報告の前に有益な研究交流の場を設けてくださったので、学会報告内容を聴衆者に納得しやすいレベルへと高められた。

2020年2月中旬からCOVID-19の感染が英国でも拡大し、レディング大学ヘンリービジネススクールで月に2～3回と開催されていたアカデミックセミナーが中止となった。2019年10月から出席したが、2月に参加したのが最後となった。レディング大学の教授だけでなく海外の大学からゲストスピーカーが集い、研究の知識を吸収し、またセミナーの前後に有意義な情報交換の場ともなっただけに、残念な思いを強くした。発表の場を得られなかったので、いつか発表を実現したい。

研究の場も良好であった。2019年10月から共同研究室208室の使用が許されたのが大きい。学内には自分の専門領域に合致した文献が揃っており、必要な洋書とか雑誌を選び、研究室の机上で読むのが日課となった。だが、2020年2月中旬から新型コロナウイルス感染症が英国内で蔓延し始め、効果的な学習の場は半年も経たず奪われた。研究室の利用は3月20日が最後となった。英国を最終的に離れる3日前の9月6日に研究室の鍵を返却しにレディング大学のキャンパスを訪れた。研究棟には入室したものの、事前に鍵の返還を約束していた管理人の方に鍵を手渡すのみであり、レディング大学訪問の最後となった。本来ならば、学内は授業期間中でキャンパス内外に大勢の学生が来ているはずだが、リモート式に全面切り替えられていたようである。

かようなわけで、3月22日に始まった英国内一斉ロックダウン以降、研究の場はマンションの自室に限られ、専ら欧米の専門書を読むにとどまった。専攻領域の多国籍企業理論以外に、2020年7月にレディングのThames Valley Science Parkでの産業クラスター調査、および田舎の再開発に関する産業研究所EU共同研究に関しては、訪問先を得られなかったため実施に至らなかった。そのため、2021年8月か9月に英国へ再訪したい。もちろん専門研究テーマとして新たに設定した「アジア新興国系多国籍企業理論の再構築」に関しては、2020年8月4～6日にスロバキアで開催予定となったAcademy of Business and Emerging Marketsの第6回国際大会で報告を企図したが、2022年8月2日～4日に延期となったため、スロバキアでの報告を再度予定したい。

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間は大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。